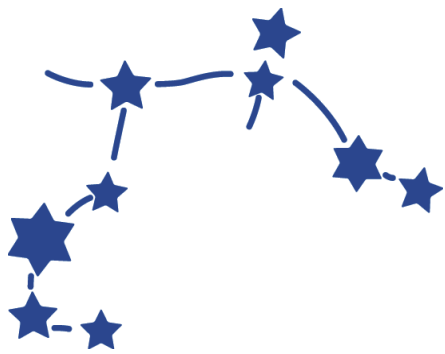




2015

大学院講義要項

外国語学研究科
言語学専攻

京都産業大学大学院

GRADUATE SCHOOL KYOTO SANGYO UNIVERSITY

■ LL001

科 目 名	: 一般言語学研究
担 当 者	: 平塚 徹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 言語学の伝統的な各分野の基礎知識を得ること
授業内容・方法	: 出席者の希望の研究分野を考慮に入れて、言語学やその関連分野の概説書などの講読を行い、適宜、講義や討論も組み合わせて授業を行う。
授 業 計 画	第 1 回 言語学の各分野の概観 第 2 回 音声学 第 3 回 音韻論 第 4 回 形態論 第 5 回 統語論 第 6 回 意味論 第 7 回 語用論 第 8 回 文字論 第 9 回 歴史言語学 第 10 回 社会言語学 第 11 回 言語人類学 第 12 回 心理言語学 第 13 回 言語習得 第 14 回 言語起源論 第 15 回 言語学の各分野の総括
評価方法・基準	: 口頭発表 (50%) 、レポート (50%)
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ LL002

科 目 名	: 比較言語学研究
担 当 者	: 北上 光志
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 比較言語学についての基本的な知識と研究方法を学ぶ。
授業内容・方法	: 比較言語学の研究書の精読と解説を通じて、比較言語学の基本的な知識を学習する。そして、それをもとに、具体的な言語分析のための方法を習得する。
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 音韻論と比較言語学（1） 第 3 回 音韻論と比較言語学（2） 第 4 回 形態論と比較言語学（1） 第 5 回 形態論と比較言語学（2） 第 6 回 統語論と比較言語学（1） 第 7 回 統語論と比較言語学（2） 第 8 回 テキスト言語学と比較言語学（1） 第 9 回 テキスト言語学と比較言語学（2） 第 10 回 学んできたことのまとめ発表 第 11 回 具体的な言語の分析方法の解説（1） 第 12 回 具体的な言語の分析方法の解説（2） 第 13 回 具体的な言語の分析方法の解説（3） 第 14 回 具体的な言語の分析方法の解説（4） 第 15 回 言語の分析方法のまとめ
評価方法・基準	: 授業活動（50%）とレポート（50%）で評価する。
教 材 な ど	: プリントを配布する。
備 考	:

■ LL003

科 目 名	:	対照言語学研究
担 当 者	:	今西 利之
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期
授 業 目 標	:	日本語と各自の専攻語(日本語非母語話者の場合は母語を含む)の仕組みを理解した上で、対照研究の方法を習得する。
授業内容・方法	:	音声・音韻、及び文法(形態・統語)、語彙、意味に関する対照言語学の問題を考える。
授 業 計 画	:	第 1 回 言語の対照研究の一般理論と分析方法(1) 第 2 回 言語の対照研究の一般理論と分析方法(2) 第 3 回 日本語と対照研究の現状 第 4 回 日本語と対照研究の問題点 第 5 回 対照研究における母語干渉 第 6 回 対照研究における誤用分析 第 7 回 日本語の音声と音韻体系 第 8 回 日本語と他の言語の音声・音韻体系との対照研究 第 9 回 日本語と他の言語の音声・音韻体系との対照分析(1) 第 10 回 日本語と他の言語と音声・音韻体系との対照分析(2) 第 11 回 言語の対照研究における形態論上の方法と問題 第 12 回 日本語と他の言語との形態論上の対照研究 第 13 回 日本語と他の言語との形態論上の対照分析(1) 第 14 回 日本語と他の言語との形態論上の対照分析(2) 第 15 回 対照言語学研究の問題・総括
評価方法・基準	:	各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教 材 な ど	:	プリントで配布する。また、必要に応じて授業中に指示する。
備 考	:	

■ LL004

科 目 名	: 応用言語学研究
担 当 者	: 浜田 盛男
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 近年の対照言語学研究の知見を概観し、そのような知見を外国語教育にどう生かすか考察する。
授業内容・方法	: 生越直樹編『対照言語学』（2002）を中心に読み進めながら、対照言語学の具体的な研究を知り、基本概念を押さえると同時に外国語教育にどう生かせるかを検討する。
授 業 計 画	: - 第 1 回 言語学と応用言語学 - 第 2 回 言語類型論と対照研究(1) - 第 3 回 言語類型論と対照研究(2) - 第 4 回 使役性 - 第 5 回 受動性 - 第 6 回 連体修飾 - 第 7 回 与格構文 - 第 8 回 テンス・アスペクト(1) - 第 9 回 テンス・アスペクト(2) - 第 10 回 数量表現（数量詞） - 第 11 回 多義語（空間的用法と時間的用法） - 第 12 回 指示詞 - 第 13 回 条件表現 - 第 14 回 移動動詞 - 第 15 回 振り返りとまとめ
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教 材 な ど	: 生越直樹編『対照言語学』（2002）東京大学出版会、関連論文
備 考	:

■ LL005

科 目 名	: 語用論研究
担 当 者	: 平塚 徹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 含意、前提、発話行為、直示といった語用論における基礎的な概念を理解すること。
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。また、それを踏まえて、内容について議論する。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 Introduction (1) 第3回 Introduction (2) 第4回 Implicature (1) 第5回 Implicature (2) 第6回 Implicature (3) 第7回 Presupposition (1) 第8回 Presupposition (2) 第9回 Speech acts (1) 第10回 Speech acts (2) 第11回 Speech acts (3) 第12回 Deixis (1) 第13回 Deixis (2) 第14回 Deixis (3) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表・議論)に基づいて評価する。
教 材 な ど	: Yan Huang, Pragmatics (Oxford Textbooks in Linguistics), Oxford University Press
備 考	:

■ LL006

科 目 名	: 一般言語学セミナー
担 当 者	: 平塚 徹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 言語学の様々な方法論についての基礎知識を得ること
授業内容・方法	: 出席者の希望の研究分野を考慮に入れて、言語学やその関連分野の概説書などの講読を行い、適宜、講義や討論も組み合わせて授業を行う。
授 業 計 画	第 1 回 言語学の各方法論の概観 第 2 回 比較言語学 第 3 回 言語地理学 第 4 回 構造言語学 第 5 回 生成文法 第 6 回 HPSG・語彙機能文法・役割指示文法 第 7 回 形式意味論 第 8 回 関連性理論 第 9 回 機能言語学 第 10 回 認知言語学 第 11 回 対照言語学 第 12 回 言語類型論 第 13 回 談話分析 第 14 回 コーパス言語学 第 15 回 言語学の各方法論の総括
評価方法・基準	: 口頭発表 (50%) 、レポート (50%)
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ LL007

科 目 名	: 比較言語学セミナー
担 当 者	: 北上 光志
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 資料収集と言語分析を行い、研究発表の完成度を高める。
授業内容・方法	: 春学期の比較言語学研究で培った知識をもとに、研究論文の精読と実践的な言語分析を行う。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 比較言語学に関する研究論文の精読（1） 第3回 比較言語学に関する研究論文の精読（2） 第4回 比較言語学に関する研究論文の精読（3） 第5回 比較言語学に関する研究論文の精読（4） 第6回 比較言語学に関する研究論文の精読（5） 第7回 比較言語学に関する研究論文の精読（6） 第8回 比較言語学に関する研究論文の精読（7） 第9回 比較言語学に関する研究論文の精読（8） 第10回 精読した研究論文のまとめの発表 第11回 具体的な言語資料の収集とその分析（1） 第12回 具体的な言語資料の収集とその分析（2） 第13回 具体的な言語資料の収集とその分析（3） 第14回 具体的な言語資料の収集とその分析（4） 第15回 これまでの分析結果の発表
評価方法・基準	: 授業活動（50%）とレポート（50%）で評価する。
教 材 な ど	: プリントを配布する。
備 考	:

■ LL008

科 目 名	:	対照言語学セミナー
担 当 者	:	今西 利之
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	日本語と各自の専攻語(日本語非母語話者の場合は母語を含む)の仕組みを理解した上で、対照研究の方法を習得する。
授業内容・方法	:	文法(形態・統語)、語用論、語彙、意味に関する対照言語学の問題を考える。
授 業 計 画	:	第 1 回 言語の対照研究の実践 第 2 回 言語の対照研究の実践(専攻語との対照の観点から) 第 3 回 言語の対照研究の実践事例 第 4 回 言語の対照研究における統語論について 第 5 回 言語の対照研究における統語論上の方法と問題 第 6 回 日本語と他の言語との統語論上の対照研究(1) 第 7 回 日本語と他の言語との統語論上の対照研究(2) 第 8 回 言語の対照研究における語用論上の方法と問題 第 9 回 日本語と他の言語との語用論上の対照研究(1) 第 10 回 日本語と他の言語との語用論上の対照研究(2) 第 11 回 言語の対照研究における語彙研究、意味研究について 第 12 回 言語の対照研究における語彙研究、意味研究の方法と問題 第 13 回 日本語と他の言語との語彙論・意味論上の対照研究(1) 第 14 回 日本語と他の言語との語彙論・意味論上の対照研究(2) 第 15 回 文法(形態・統語)、語用論、語彙、意味に関する対照言語学の総括
評価方法・基準	:	各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教 材 な ど	:	プリントで配布する。また、必要に応じて授業中に指示する。
備 考	:	

■ LL009

科 目 名	: 応用言語学セミナー
担 当 者	: 浜田 盛男
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 日本語と英語、日本語と学生の母語等の比較対照を通してその主な共通点、相違点を明らかにする。そして、その結果を外国語教育や翻訳にどのように生かせるかより深く理解できるようにする。
授業内容・方法	: 日本語学習者の誤用の検討、翻訳作業、等を通し、日本語と他の言語との共通点、相違点を確認し、外国語教育（教材、クラス活動、評価等）や翻訳にどう生かせるか検討する。また、適宜関連論文を読み理解を深める。
授 業 計 画	: - 第1回 概観：言語学と外国語教育・翻訳 - 第2回 学習者の誤用(1)（音声・音韻） - 第3回 学習者の誤用(2)（文構造1） - 第4回 学習者の誤用(3)（文構造2） - 第5回 学習者の誤用(4)（語彙・意味） - 第6回 学習者の誤用(5)（テキスト・談話） - 第7回 学習者の誤用(6)（語用論） - 第8回 翻訳(1) - 第9回 翻訳(2) - 第10回 翻訳(3) - 第11回 翻訳(4) - 第12回 学習者コーパス - 第13回 まとめ：外国語教育・翻訳への応用(1) - 第14回 まとめ：外国語教育・翻訳への応用(2) - 第15回 振り返りと口頭発表
評価方法・基準	: 平常点・口頭発表 50%、レポート 50%で評価する。
教 材 な ど	: 随時、関連論文や資料を提示する。
備 考	:

■ LL010

科 目 名	: 語用論セミナー
担 当 者	: 平塚 徹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 語用論と認知・意味論・統語論との関係について理解すること
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。また、それを踏まえて、内容について議論する。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 Pragmatics and cognition (1) 第3回 Pragmatics and cognition (2) 第4回 Pragmatics and cognition (3) 第5回 Pragmatics and semantics (1) 第6回 Pragmatics and semantics (2) 第7回 Pragmatics and semantics (3) 第8回 Pragmatics and syntax (1) 第9回 Pragmatics and syntax (2) 第10回 Pragmatics and syntax (3) 第11回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(1) 第12回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(2) 第13回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(3) 第14回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(4) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表・議論)に基づいて評価する。
教 材 な ど	: Yan Huang, Pragmatics (Oxford Textbooks in Linguistics), Oxford University Press
備 考	:

■ LL011

科 目 名	: 一般言語学発展セミナー
担 当 者	: 浜田 盛男
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 日本語学の要点を英語で理解することで英語でも発信できるようにし、日本語から一般言語学にどう貢献できるかを考察する。
授業内容・方法	: Miyagawa and Saito eds(2008)を読み進め、日本語学・一般言語学の英語での用語に習熟し、日本語学と一般言語学の関係を理解し、一般言語学への理解をさらに深める。
授 業 計 画	第1回 概観(1) 第2回 概観(2) 第3回 使役構文 第4回 情報構造と「は」と「が」(1) 第5回 情報構造と「は」と「が」(2) 第6回 音韻論と語彙範疇 第7回 動詞(1) 第8回 動詞(2) 第9回 名詞(1) 第10回 名詞(2) 第11回 アクセント 第12回 「が」と「の」の転換 第13回 文の構造(1) 第14回 文の構造(2) 第15回 振り返りとまとめ
評価方法・基準	: 平常点による。
教 材 な ど	: Miyagawa and Saito eds(2008) The Oxford Handbook of Japanese Linguistics 他
備 考	:

■ LL012

科 目 名	: 比較言語学発展セミナー
担 当 者	: 青木 正博
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 比較言語学の方法論を学ぶ
授業内容・方法	: アントワーズ・メイエの『共通スラヴ語』の音論の部を読み、比較言語学の方法論を学ぶ。
授 業 計 画	第1回 1. 子音 第2回 1.1. 閉鎖音と破擦音 第3回 1.2. 歯擦音 第4回 1.3. 古い子音鳴音 第5回 2. 母音 第6回 2.1. 古い単母音 第7回 2.2. 古い二重母音 第8回 3. 母音と j の子音への影響 第9回 3.1. 閉鎖後口蓋音 第10回 3.2. 閉鎖歯音と閉鎖唇音 第11回 4. 母音の量（長さ） 第12回 5. j とシュー音の続く母音への影響 第13回 6. 子音の結合 第14回 7. 語末 第15回 8. アクセント
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する
教 材 な ど	: A.Meillet, Le Slave Commun、Seconde édition、1965、Paris
備 考	:

■ LL013

科 目 名	: 対照言語学発展セミナー
担 当 者	: 小林 満
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 日本語・イタリア語の対照研究をととして両言語の特徴を明らかにすること。
授業内容・方法	: 日本の小説・漫画・アニメなどでイタリア語の翻訳や吹き替えがある作品を具体的に対照言語学的に分析していく。それぞれ4回ずつ分析に時間を充てるが、（1）切り口の発見（2）具体的分析（3）批判的検証（4）総括の順に進める。準備するために事前・事後学習が多く要求される。
授 業 計 画	第1回 対照言語学概観 第2回 日本語・イタリア語の対照研究概観 第3回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析（1） 第4回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析（2） 第5回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析（3） 第6回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析（4） 第7回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析（1） 第8回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析（2） 第9回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析（3） 第10回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析（4） 第11回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析（1） 第12回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析（2） 第13回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析（3） 第14回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析（4） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教 材 な ど	: 必要に応じてプリント配付
備 考	:

■ LL014

科 目 名	: 応用言語学発展セミナー
担 当 者	: 青木 正博
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学び、自分が研究している言語の所有構文の組織がどのようなものであるか考察する。
授業内容・方法	: B.Heine(1997) を講読し、世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学ぶ。
授 業 計 画	: 第1回 状態 第2回 序論 第3回 序論 第4回 いくつかの所有概念 第5回 問題点 第6回 過程 第7回 情報源 第8回 文法化 第9回 目標 第10回 図式の再構 第11回 言語内部のヴァリエント 第12回 図式と所有概念 第13回 さらに論点 第14回 属性所有について 第15回 情報源から目標へ
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教 材 な ど	: B.Heine(1997) Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization、Cambridge、Cambridge University Press.
備 考	:

■ LL015

科 目 名	: 語用論発展セミナー
担 当 者	: 北上 光志
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 語用論についての基本的な知識と言語分析の方法を学ぶ。
授業内容・方法	: 語用論の研究書の精読と解説を通じて、語用論の基本的な知識を学習する。そして、それをもとに、具体的な言語分析のための方法を習得する。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション : 第2回 音韻論と語用論（1） : 第3回 音韻論と語用論（2） : 第4回 形態論と語用論（1） : 第5回 形態論と語用論（2） : 第6回 統語論と語用論（1） : 第7回 統語論と語用論（2） : 第8回 テキスト言語学と語用論（1） : 第9回 テキスト言語学と語用論（2） : 第10回 学んできたことのまとめの発表 : 第11回 具体的な言語の分析方法の解説（1） : 第12回 具体的な言語の分析方法の解説（2） : 第13回 具体的な言語の分析方法の解説（3） : 第14回 具体的な言語の分析方法の解説（4） : 第15回 言語の分析方法のまとめ
評価方法・基準	: 授業活動（50%）とレポート（50%）で評価する。
教 材 な ど	: プリントを配布する。
備 考	:

■ LL016

科 目 名	: 一般言語学特講
担 当 者	: 浜田 盛男
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 春学期の一般言語学発展セミナーに引き続き、日本語学の要点を英語で理解することで英語でもさらに発信できるようにし、日本語が一般言語学に対し何を示唆しているか考察する。
授業内容・方法	: Miyagawa and Saito eds(2008)の後半を読み進め、日本語学・一般言語学の英語での用語に習熟し、日本語学と一般言語学の関係への理解をさらに深める。その上で学生に関心のある論文を読む。
授 業 計 画	: - 第1回 文法の習得(1) - 第2回 文法の習得(2) - 第3回 数量詞 - 第4回 複合動詞 - 第5回 Wh-疑問文 - 第6回 不定代名詞 - 第7回 名詞句省略(1) - 第8回 名詞句省略(2) - 第9回 二重他動詞（三項動詞） - 第10回 限定詞の構造 - 第11回 関連論文(1) - 第12回 関連論文(2) - 第13回 関連論文(3) - 第14回 関連論文(4) - 第15回 振り返りとまとめ
評価方法・基準	: 平常点による。
教 材 な ど	: Miyagawa and Saito eds(2008) The Oxford Handbook of Japanese Linguistics 他
備 考	:

■ LL017

科 目 名	:	比較言語学特講
担 当 者	:	青木 正博
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	比較言語学の方法論を学ぶ
授業内容・方法	:	アントワヌ・メイエの『共通スラヴ語』の形態論の部を読み、比較言語学の方法論を学ぶ。
授 業 計 画	:	第1回 1. 子音交替と母音交替 第2回 2. 動詞 第3回 2.1. 動詞の構造 第4回 2.1.1. 現在時制の語幹 第5回 2.1.2. 不定詞、アオリスト、過去時制分詞の語幹 第6回 2.1.3. 現在時制と不定詞の分類 第7回 2.2. アスペクト 第8回 2.3. 動詞の変化 第9回 3. 名詞類 第10回 3.1. 名詞類の語形成 第11回 3.1.1. 語形成の古い方法の部分的保存と除去 第12回 3.1.2. 生産的語形成 第13回 3.2. 名詞類の変化 第14回 3.2.1. 名詞と普通の形容詞の変化 第15回 3.2.2. 代名詞の変化
評価方法・基準	:	平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する
教 材 な ど	:	A.Meillet, Le Slave Commun、Seconde édition、1965、Paris
備 考	:	

■ LL018

科 目 名	: 対照言語学特講
担 当 者	: 小林 満
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 具体的事例をとおして日本語・イタリア語の対照研究の現状を理解する。
授業内容・方法	: 日本語・イタリア語の対照研究のテキストを批判的に読みつつ、自らも関連する事例を研究して発表する。
授 業 計 画	第1回 日本語・イタリア語の対照研究史 第2回 音韻体系の対照研究 第3回 オノマトペの対照研究 第4回 親族語彙の対照研究 第5回 色彩語彙の対照研究 第6回 指示形容詞の対照研究 第7回 動詞の対照研究（1） 第8回 動詞の対照研究（2） 第9回 否定接頭辞の対照研究 第10回 文末表現の対照研究 第11回 借用語の対照研究（1） 第12回 借用語の対照研究（2） 第13回 借用語の対照研究（3） 第14回 借用語の対照研究（4） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教 材 な ど	: 古浦敏生『日本語・イタリア語対照研究』（文流）
備 考	:

■ LL019

科 目 名	: 応用言語学特講
担 当 者	: 青木 正博
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学び、自分が研究している言語の所有構文の組織がどのようなものであるか考察する。
授業内容・方法	: B.Heine(1997) を講読し、世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学ぶ。
授 業 計 画	第1回 特定化 第2回 所有者上昇について 第3回 譲渡不可能性について 第4回 属性所有と述語所有について 第5回 所有からアスペクトへ 第6回 平行性 第7回 明確化所有 第8回 推移のパターン 第9回 存在、所有、場所と他の領域 第10回 評価 第11回 代わりのアプローチ 第12回 出来事の図式 第13回 範疇と普遍性について 第14回 説明について 第15回 結論
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教 材 な ど	: B.Heine(1997) Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization、Cambridge、Cambridge University Press.
備 考	:

■ LL020

科 目 名	： 語用論特講
担 当 者	： 北上 光志
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 2年
開 講 期 間	： 秋学期
授 業 目 標	： 資料収集と言語分析を行い、研究発表の完成度を上げる。
授業内容・方法	： 春学期の語用論発展セミナーで培った知識をもとに、研究論文の精読と実践的な言語分析を行う。
授 業 計 画	： 第1回 オリエンテーション 第2回 語用論に関する研究論文の精読（1） 第3回 語用論に関する研究論文の精読（2） 第4回 語用論に関する研究論文の精読（3） 第5回 語用論に関する研究論文の精読（4） 第6回 語用論に関する研究論文の精読（5） 第7回 語用論に関する研究論文の精読（6） 第8回 語用論に関する研究論文の精読（7） 第9回 語用論に関する研究論文の精読（8） 第10回 精読した研究論文のまとめの発表 第11回 資料収集とその分析（1） 第12回 資料収集とその分析（2） 第13回 資料収集とその分析（3） 第14回 資料収集とその分析（4） 第15回 これまでの分析結果の発表
評価方法・基準	： 授業活動（50%）とレポート(50%)で評価する。
教 材 な ど	： プリントを配布する。
備 考	：

■ LL021

科 目 名	: 日本語特講 A
担 当 者	: 今西 利之
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 現代日本語文法に関する様々な問題の検討を通して、現代日本語の分析と研究の方法論を習得する。
授業内容・方法	: 現代日本語記述文法に関する文献・資料を読みながら、基本的な概念を理解するとともに、問題点について考える。
授 業 計 画	第 1 回 現代日本語文法研究の現在 第 2 回 文の基本構造、文法カテゴリー、文の成分 第 3 回 形態論(1) 形態論の基礎、品詞 第 4 回 形態論(2) 活用 語形成 第 5 回 格と構文(1) 格と文型 第 6 回 格と構文(2) さまざまな格 第 7 回 格と構文(3) 補助動詞構文 第 8 回 格と構文(4) さまざまな構文 第 9 回 ヴォイス(1) 受け身 第 10 回 ヴォイス(2) 使役、その他 第 11 回 ヴォイス(3) 統語的ヴォイスと語彙的ヴォイス 第 12 回 アスペクト(1) ～テイル 第 13 回 アスペクト(2) アスペクトに関わる様々な形式 第 14 回 アスペクト(3) アスペクトと動詞の分類 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教 材 な ど	: プリントで配布する。また、必要に応じて授業中に指示する。
備 考	:

■ LL022

科 目 名	: 日本語特講B
担 当 者	: 今西 利之
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 現代日本語文法に関する様々な問題の検討を通して、現代日本語の分析と研究の方法論を習得する。
授業内容・方法	: 現代日本語記述文法に関する文献・資料を読みながら、基本的な概念を理解するとともに、問題点について考える。
授 業 計 画	第1回 現代日本語文法研究の現在 第2回 テンス(1) 主節のテンス 第3回 テンス(2) 従属節のテンス(1) 第4回 テンス(3) 従属節のテンス(2) 第5回 モダリティ(1) 表現類型のモダリティ 第6回 モダリティ(2) 評価のモダリティ、認識のモダリティ 第7回 モダリティ(3) 説明のモダリティ、伝達のモダリティ 第8回 主題ととりたて(1) とりたて 第9回 主題ととりたて(2) 「は」と「が」 第10回 主題ととりたて(3) さまざまな主題の表現 第11回 複文(1) 補足節、名詞修飾節 第12回 複文(2) 条件節 時間節 第13回 複文(3) その他の節 第14回 待遇表現 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教 材 な ど	: プリントで配布する。また、必要に応じて授業中に指示する。
備 考	:

■ LL023

科 目 名	: ドイツ語特講 A
担 当 者	: 生田 眞人
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 新高ドイツ語の発展の歴史を学び、ドイツ文法の重要項目を習得する。
授業内容・方法	: 新高ドイツ語の歴史的変遷を講義で説明し、一部、実習の形で受講者にドイツ文法の骨格を理解してもらう。16 世紀にマルティン・ルターが聖書を翻訳することで開拓していったドイツ語の今日までの変遷過程と文法形態を 15 回に分けて講義する。 言語の変遷過程と連動して変化していったドイツ文化の特徴も、併せて講義内容とする。
授 業 計 画	: 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 新高ドイツ語とは? : 「新高ドイツ語」 第 3 回 新高ドイツ語の具体的特徴 (その 1) 新高ドイツ語の語彙の特徴について 第 4 回 新高ドイツ語の具体的特徴 (その 2) 新高ドイツ語の文法形態について (1) 第 5 回 新高ドイツ語の具体的特徴 (その 3) 新高ドイツ語の文法形態について (2) 第 6 回 新高ドイツ語の具体的特徴 (その 4) 新高ドイツ語の文体論について 第 7 回 新高ドイツ語の具体的特徴 (その 5) 新高ドイツ語の意味論について 第 8 回 新高ドイツ語から現代ドイツ語への変遷過程 (その 1) 第 9 回 新高ドイツ語から現代ドイツ語への変遷過程 (その 2) 第 10 回 新高ドイツ語から現代ドイツ語への変遷過程 (その 3) 第 11 回 新高ドイツ語から現代ドイツ語への変遷過程 (その 4) 第 12 回 新高ドイツ語から現代ドイツ語への変遷過程 (その 5) 第 13 回 新高ドイツ語から現代ドイツ語への変遷過程 (その 6) 第 14 回 新高ドイツ語と現代ドイツ語の差異の総合的研究 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 講義聴講への積極的な取り組み・熱意 (40%) と、学期末に提出してもらうレポートの内容 (60%) に応じて評価する。
教 材 な ど	: (Hg.) Ader, Dorothea, Schüler-Duden (Dudenverlag 2013、改訂版)
備 考	: 教材はコピーで配付の予定。

■ LL024

科 目 名	: ドイツ語特講 B
担 当 者	: 生田 眞人
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 現代ドイツ語の発展の歴史を学び、ドイツ文法の重要項目を習得する。
授業内容・方法	: 春学期の学習の継続として、現代ドイツ語の今日までの変遷過程と文法形態を 15 回に分けて講義する。言語の変遷過程と連動して変化していったドイツ文化の特徴の研究も講義内容とする。
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 現代ドイツ語の研究：総合的研究の外観 第 3 回 現代ドイツ語の研究：ドイツにおける言語学的地域差 第 4 回 現代ドイツ語の文法（動詞研究） 第 5 回 現代ドイツ語の文法（名詞研究） 第 6 回 現代ドイツ語の文法（形容詞研究） 第 7 回 現代ドイツ語の文法（副詞研究） 第 8 回 現代ドイツ語の文法（等位接続詞研究） 第 9 回 現代ドイツ語の文法（従属接続詞研究） 第 10 回 現代ドイツ語の文法（前置詞研究） 第 11 回 現代ドイツ語の文法（文体論、研究 1） 第 12 回 現代ドイツ語の文法（文体論、研究 2） 第 13 回 現代ドイツ語の文法（文体論、研究 3） 第 14 回 新高ドイツ語と現代ドイツ語の文体論的比較 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 講義聴講への積極的な取り組み・熱意（40％）と、学期末に提出してもらうレポートの内容（60％）に応じて評価する。
教 材 な ど	: (Hg.) Ader, Dorothea, Schüler-Duden (Dudenverlag 2013、改訂版)
備 考	: 教材はコピーで配付の予定。

■ LL025

科 目 名	: フランス語特講A
担 当 者	: 平塚 徹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: フランス語についてフランス語で書かれた文献を読んで理解できるようになること
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。内容についても議論を行う。
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 La linguistique : aperçu historique 第3回 Saussure et le cours de linguistique générale 第4回 Ecoles et domaines de la linguistique 第5回 Les concepts fondamentaux de la linguistique structurale 第6回 Eléments de phonétique articulatoire 第7回 Eléments de phonétique acoustique 第8回 L'alphabet phonétique international 第9回 Les classements 第10回 La perspective phonologique 第11回 Les faits prosodiques 第12回 Le mot 第13回 Sémantique du mot 第14回 Lexicographie et pratique du dictionnaire 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表)に基づいて評価する。
教 材 な ど	: Introduction à la linguistique française : Tome 1, Paris : Hachette, 2001.
備 考	:

■ LL026

科 目 名	: フランス語特講B
担 当 者	: 平塚 徹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: フランス語についてフランス語で書かれた文献を読んで理解できるようになること。
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。内容についても議論を行う。
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 Le domaine de la syntaxe 第3回 Les principes de l'analyse en constituants immédiats 第4回 Analyse des constituants majeurs de la phrase 第5回 La phrase complexe 第6回 De la phrase au texte : anaphore et progression thématique 第7回 Les situations de communication et le sujet dans la langue 第8回 La langue dans l'espace et le temps 第9回 Des registres de langue aux pratiques linguistiques 第10回 Textes et fonction poétique 第11回 Approches du signifiant 第12回 Approches du signifié 第13回 受講生と協議してテキストを選択する(1) 第14回 受講生と協議してテキストを選択する(2) 第15回 受講生と協議してテキストを選択する(3)
評価方法・基準	: 平常点(発表)に基づいて評価する。
教 材 な ど	: Introduction à la linguistique française : Tome 2, Paris : Hachette, 2001.
備 考	:

■ LL029

科 目 名	: イタリア語特講A
担 当 者	: 小林 満
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 古代・中世から現代にいたるイタリア語の歴史を理解すること。
授業内容・方法	: イタリア語で書かれたテキストを読みながら解説を加えていく。
授 業 計 画	第1回 ラテン語から俗語へ 第2回 イタリア語の初期資料 第3回 聖フランチェスコ 第4回 シチリア派の詩人たち 第5回 ダンテ（1） 第6回 ダンテ（2） 第7回 ペトラルカ 第8回 15世紀 第9回 言語論争（1） 第10回 言語論争（2） 第11回 クルスカ辞典の成立 第12回 啓蒙主義の時代 第13回 国家統一と国語の誕生 第14回 20世紀前半（ファシズムを中心に） 第15回 20世紀後半のイタリア語
評価方法・基準	: 平常点(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教 材 な ど	: 必要に応じてプリント配付
備 考	:

■ LL030

科 目 名	: イタリア語特講B
担 当 者	: 小林 満
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: イタリア半島の諸方言の諸側面について理解すること。
授業内容・方法	: イタリア語で書かれたテキストと各方言で書かれた作品を読みながら解説を加えていく。
授 業 計 画	第1回 イタリア半島における諸方言の概観 第2回 ヴェネト方言 第3回 ルツァンテの作品を読む 第4回 ミラノ方言 第5回 ポルタの作品を読む 第6回 ボローニャ方言 第7回 ローマ方言 第8回 ベッリの作品を読む 第9回 ナポリ方言 第10回 バジーレの作品を読む 第11回 ナポリ方言のポップスの歴史 第12回 シチリア方言 第13回 シチリア派の作品を読む 第14回 カミッレーリの作品を読む 第15回 サルデーニャ語
評価方法・基準	: 平常点(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教 材 な ど	: 必要に応じてプリント配付
備 考	:

■ LL031

科 目 名	: ロシア語特講 A
担 当 者	: 青木 正博
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: ロシア語の格の意味について理解する。
授業内容・方法	: ロシア科学アカデミー発行 『ロシア語文法』 (1980) の格に関する部分を講読し、検討する。
授 業 計 画	: 第 1 回 格のカテゴリー : 第 2 回 一般的定義 : 第 3 回 格のカテゴリーを示す一連の形式 : 第 4 回 『格』という術語のいろいろな意味 : 第 5 回 格の形式的表現 : 第 6 回 格変化組織による名詞を 3 つのクラス (格変化タイプ) への分類 : 第 7 回 格変化と名詞変化表の特徴づけ : 第 8 回 同じ変化タイプ内での変化形の同音異義 : 第 9 回 異なる変化タイプでの変化形の同音異義 : 第 10 回 格の意味 : 第 11 回 導入のコメント : 第 12 回 語と統語構文との関係における格 : 第 13 回 語につく格関係と語につかない格関係 : 第 14 回 格の基本的意味 : 第 15 回 格の客観的意味
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する。
教 材 な ど	: Русская грамматика. Академия наук СССР, 1980
備 考	:

■ LL032

科 目 名	: ロシア語特講 B
担 当 者	: 青木 正博
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: ロシア語の格の意味について理解する。
授業内容・方法	: ロシア科学アカデミー発行 『ロシア語文法』 (1980) の格に関する部分を講読し、検討する。
授 業 計 画	第 1 回 格の主観的意味 第 2 回 格の定語的意味 第 3 回 格の抽象的意味と具体的意味 第 4 回 情報的に必要な補足形式としての格 第 5 回 格の意味の混成 第 6 回 格の意味が形成される要因 第 7 回 多くの意味を持つ単位としての格 第 8 回 格の中心的意思と周辺的意思 第 9 回 前置詞に支配される格の形式とそれらの意味の特質 第 10 回 前置詞なしの格 第 11 回 主格 第 12 回 生格 第 13 回 与格 第 14 回 対格 第 15 回 造格
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する。
教 材 な ど	: Русская грамматика. Академия наук СССР, 1980
備 考	:

■ LL035

科 目 名	: モンゴル・満州・トルコ語特講 A
担 当 者	: 池田 哲郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: アジアの中のアルタイ語として概説する。
授業内容・方法	: 主に講読とするが、希望により実際のモンゴル語（内外モンゴル）、満州語（エヴェンキ語）、トルコ共和国トルコ語のテキストを講読してもよい。
授 業 計 画	第 1 回 アジア南方の言語の分布について 第 2 回 アジア北方の言語の分布について 第 3 回 アルタイ言語学入門 第 4 回 アルタイの現代語 モンゴル語 第 5 回 続き 言語文字テキスト紹介 第 6 回 アルタイの現代語 エヴェンキ語 第 7 回 続き（満州口語は外した） 第 8 回 アルタイの現代語 トルコ語 第 9 回 続き 言語文字テキスト紹介 第 10 回 続き 言語文字テキスト紹介 第 11 回 ウラル言語学入門 第 12 回 日本語の系統、ハンガリー語の系統 第 13 回 アルタイ語の構造、ウラル語の構造 第 14 回 言語理論からみたアルタイ語 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	平常点 50% レポート 50% 各回ごとにテーマに見合った課題を与えるので、それぞれ A4(40 字 40 行)で 2 枚提出する。
教 材 な ど	: 指定しないが、希望に応じる。
備 考	:

■ LL036

科 目 名	： モンゴル・満州・トルコ語特講 B
担 当 者	： 池田 哲郎
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 1 年
開 講 期 間	： 秋学期
授 業 目 標	： アジアの中のアルタイ語として言語資料あるいは文献資料を読む。
授業内容・方法	： 主に講読とする。アルタイの三つの言語の内、ひとつを選択してもよい。
授 業 計 画	： 第 1 回 アルタイ文献学入門 第 2 回 モンゴル文献学入門 第 3 回 西域の漢字音 第 4 回 漢字音モンゴル語『元朝秘史』 第 5 回 蒙漢対訳『華夷訳語』 第 6 回 モンゴル文語のテキストを読む 第 7 回 続き 第 8 回 満州文献学入門 第 9 回 トルコ文献学入門 第 10 回 突厥トルコ語碑文 第 11 回 マフムード・アル・カーシュガリー『トルコ詩歌集』 第 12 回 続き 第 13 回 オスマン・トルコ語のテキストを読む 第 14 回 続き 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	： 平常点 50% レポート 50% 各回ごとにテーマに見合った課題を与えるので、それぞれ A4(40 字 40 行)で 2 枚提出する。
教 材 な ど	： 指定しないが、希望に応じる。
備 考	：

■ LL037

科 目 名	: 朝鮮語特講 A
担 当 者	: 朴 真完
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 韓国朝鮮語の初級の学力を養成する。 論文解読・論文作成のための朝鮮語を体系的に学習する。
授業内容・方法	: ハングル（文字）の読み書きや発音の基礎から始め、日常会話表現を通して初級レベルの文法を習得する。作文・読解などに必要な文語表現についても触れる。 文法説明は講義形式で行うが、発音や会話はペアワークで繰り返して練習する。論文解読・論文作成のための読解は、授業中の個人発表を通して重要な表現をチェックし、みんなで反復練習をする。授業内容の理解度を確認するために小テストを頻繁に実施する。
授 業 計 画	: 第 1 回 文字 第 2 回 発音の変化 第 3 回 名詞文 第 4 回 丁寧(平叙) 第 5 回 丁寧(疑問) 第 6 回 尊敬 第 7 回 基本的な接続語尾 第 8 回 時制(現在) 第 9 回 時制(過去) 第 10 回 使役時制(未来) 第 11 回 数詞 第 12 回 助数詞 第 13 回 助詞の形式と用法 第 14 回 語尾の形式と用法 第 15 回 試験とまとめ
評価方法・基準	: 平常点 40%、期末試験 60%
教 材 な ど	: 教科書：熊谷明泰 『(初級韓国朝鮮語教材) アリラン』（朝日出版社、2011） 参考書：油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』（小学館、1993） 必要に応じて、プリント教材を配付
備 考	:

■ LL038

科 目 名	: 朝鮮語特講B
担 当 者	: 朴 真完
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 韓国朝鮮語の初級の学力を養成する。 論文解読・論文作成のための朝鮮語を体系的に学習する。
授業内容・方法	: ハングル（文字）の読み書きや発音の基礎から始め、日常会話表現を通して初級レベルの文法を習得する。作文・読解などに必要な文語表現についても触れる。 文法説明は講義形式で行うが、発音や会話はペアワークで繰り返して練習する。論文解読・論文作成のための読解は、授業中の個人発表を通して重要な表現をチェックし、みんなで反復練習をする。授業内容の理解度を確認するために小テストを頻繁に実施する。
授 業 計 画	: 第1回 命令文 第2回 請誘文 第3回 否定 第4回 禁止 第5回 合成法（複合名詞、複合形容詞、複合動詞） 第6回 派生法（名詞化、形容詞化、動詞化） 第7回 文語表現 第8回 引用 第9回 受け身 第10回 使役 第11回 変則活用 第12回 連体形 第13回 主要な助詞 第14回 主要な語尾 第15回 試験とまとめ
評価方法・基準	: 平常点 40%、期末試験 60%
教 材 な ど	: 教科書：熊谷明泰 『(初級韓国朝鮮語教材) アリラン』（朝日出版社、2011） 参考書：油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』（小学館、1993） 必要に応じて、プリント教材を配付
備 考	:

■ LL039

科 目 名	: インドネシア語特講A
担 当 者	: 左藤 正範
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する理解を深めること。
授業内容・方法	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、受講者との議論を行う。
授 業 計 画	第1回 授業の概要と方法に関する説明 第2回 名詞、代名詞、形容詞 第3回 名詞、代名詞、形容詞 第4回 名詞、代名詞、形容詞 第5回 名詞、代名詞、形容詞 第6回 指示詞、数詞、否定詞 第7回 指示詞、数詞、否定詞 第8回 指示詞、数詞、否定詞 第9回 指示詞、数詞、否定詞 第10回 指示詞、数詞、否定詞 第11回 前置詞、接続詞、副詞 第12回 前置詞、接続詞、副詞 第13回 前置詞、接続詞、副詞 第14回 前置詞、接続詞、副詞 第15回 前置詞、接続詞、副詞
評価方法・基準	: レポート 50%と平常の受講態度など 50%
教 材 な ど	: 教科書: Abdul Chaer. 1994. Tata Bahasa Praktis Bahasa Indonesia. Jakarta: Penerbit Bhratara.
備 考	:

■ LL040

科 目 名	: インドネシア語特講B
担 当 者	: 左藤 正範
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、理解を深めること。
授業内容・方法	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、受講者との議論を行う。
授 業 計 画	第1回 授業の概要と方法に関する説明 第2回 疑問詞、間投詞 第3回 疑問詞、間投詞 第4回 疑問詞、間投詞 第5回 疑問詞、間投詞 第6回 接頭辞、接尾辞 第7回 接頭辞、接尾辞 第8回 接頭辞、接尾辞 第9回 接頭辞、接尾辞 第10回 接頭辞、接尾辞 第11回 複合接辞 第12回 複合接辞 第13回 複合接辞 第14回 複合接辞 第15回 複合接辞
評価方法・基準	: レポート 50%と平常の受講態度など 50%
教 材 な ど	: 教科書: Abdul Chaer. 1994. <i>Tata Bahasa Praktis Bahasa Indonesia</i> . Jakarta: Penerbit Bhratara.
備 考	:

■ LL041

科 目 名	: アラブ語特講 A
担 当 者	: 山本 啓二
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 古典アラビア語の文法を学ぶ。
授業内容・方法	: 英文の文法書を読む。
授 業 計 画	: 第1回 Writing System
	第2回 Phonology (1)
	第3回 Phonology (2)
	第4回 Morphology, Nouns (1)
	第5回 Morphology, Nouns (2)
	第6回 Morphology, Nouns (3)
	第7回 Morphology, Nouns (4)
	第8回 Morphology, Nouns (5)
	第9回 Morphology, Nouns (6)
	第10回 Morphology, Verbs (1)
	第11回 Morphology, Verbs (2)
	第12回 Morphology, Verbs (3)
	第13回 Morphology, Verbs (4)
	第14回 Morphology, Verbs (5)
	第15回 Morphology, Verbs (6)
評価方法・基準	: 平常点(100%)による。
教 材 な ど	: W. Fischer, <i>A Grammar of Classical Arabic</i> , New Haven, 2002.
備 考	:

■ LL042

科 目 名	: アラブ語特講 B
担 当 者	: 山本 啓二
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 古典アラビア語の文法を学ぶ。
授業内容・方法	: 英文の文法書を読む。
授 業 計 画	: 第 1 回 Morphology, Pronouns
	第 2 回 Morphology, Particles (1)
	第 3 回 Morphology, Particles (2)
	第 4 回 Morphology, Particles (3)
	第 5 回 Morphology, Particles (4)
	第 6 回 Morphology, Particles (5)
	第 7 回 Morphology, Particles (6)
	第 8 回 Syntax (1)
	第 9 回 Syntax (2)
	第 10 回 Syntax (3)
	第 11 回 Syntax (4)
	第 12 回 Syntax (5)
	第 13 回 Syntax (6)
	第 14 回 Syntax (7)
	第 15 回 Syntax (8)
評価方法・基準	: 平常点(100%)による。
教 材 な ど	: W. Fischer, <i>A Grammar of Classical Arabic</i> , New Haven, 2002.
備 考	:

■ LE035・LC031・LL043

科 目 名	: 研究指導 1・2
担 当 者	: 研究指導教員
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 4
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 通年
授 業 目 標	: 春学期：修士論文または特定課題研究成果報告書の作成に向けて必要な文献の収集と精査、研究計画の立案等を行う。 秋学期：修士論文または特定課題研究成果報告書の完成に向けて草案の作成、問題点の整理と改善、最終稿の執筆を行う。
授業内容・方法	: 研究指導教員による個別指導。
授 業 計 画	: 春学期：授業の進め方は研究指導教員により異なるが、概ね以下の段階を経て進める。 第1回 基本文献のレビュー 第2回 基本文献のレビュー 第3回 基本文献のレビュー 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマの設定 第6回 研究テーマの設定 第7回 研究計画の作成 第8回 研究計画の作成 第9回 研究計画の作成 第10回 データの収集・分析 第11回 データの収集・分析 第12回 データの収集・分析 第13回 最新の文献の研究 第14回 最新の文献の研究 第15回 最新の文献の研究 秋学期：授業の進め方は研究指導教員により異なるが、概ね以下の段階を経て進める。 第1回 草稿の作成 第2回 草稿の作成 第3回 草稿の作成 第4回 問題点の整理と改善 第5回 問題点の整理と改善 第6回 問題点の整理と改善 第7回 草稿の修正 第8回 草稿の修正 第9回 草稿の修正 第10回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第11回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第12回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第13回 口頭試問 第14回 口頭試問 第15回 口頭試問
評価方法・基準	: 修士論文または特定課題研究成果報告書の内容および口頭試問の結果により評価する。
教 材 な ど	: 必要に応じ研究指導教員が指示する。
備 考	: